vivo

水戸芸術館音楽紙［ヴィーヴォ］Vol.271

8-9
August & September 2025

特集 02

”新生“新ダヴィッド同盟


©Laura Stevens






©Takehiro Goto

05 【レポート】パイプオルガン・プロムナード・コンサート★ゴールデンウィーク・スペシャル
06 鈴木優人（チェンバロ）「J. S. バッハをとりまく音楽のシリーズ」
第2回「捧げもの」からモーツァルトへの系譜
08 INFORMATION

水戸芸術館
ART TOWER MITO

結成15年を迎える「新ダヴィッド同盟」メンバーからのメッセージ


庄司紗矢香
©Laura Stevens

「新ダヴィッド同盟」が生まれて早くも15年。

今年からはチェロの新星、北村陽さんにジョインしていただき、新たな息吹が加わります。同盟員一同は北村さんに絶対なる信頼をおいており、彼を迎えられることをとても嬉しく思っています。

今回は何年も前から水戸芸術館の「新ダヴィッド同盟」でプログラムに組みたく思っていた、モーツァルトの弦楽三重奏による〈ディヴェルティメント〉に取り組みます。モーツァルトのヴァイオリン・ソナタ全曲録音を始めた今、改めてこの大曲に向き合う事に大きな意義を感じています。近年の研究と磯村さんの経験豊かでモーツァルトの神髄に触れる音楽作り、そして北村さんののびやかな感性が出会い、「新ダヴィッド同盟」ならではのモーツァルトを生み出せることを期待しています。

後半は小菅優さんが加わってブラームスの〈ピアノ四重奏曲第1番〉を演奏します。優さんとはお互い15歳のときに出会い、定期的に共演を重ねて来ました。ともに歳を重ねながら考えを交換し合えることは大きな喜びで、また言葉を交わさずにも分かり合える事も多くあります。

ハンガリーの音楽家と気が合い、トランスシルヴァニアの奥深い素朴さに惹かれていたブラームス。演奏には感傷ではなく精神性を求めていました。

皆様に馴染み深い2曲の名曲。

2025年、新ダヴィッド同盟と気持ち新たに挑める事が楽しみです。

庄司紗矢香

＊＊＊＊＊＊

「新ダヴィッド同盟」が誕生15周年を迎えたと聞き、少しノスタルジーを感じていますが、身の引き締まる思いでもあります。

気の合った室内楽を愛する仲間が水戸芸術館に集い、勉強会のような感じのリハーサルを連日続け1回のコンサートを行うという、私共にとって大変貴重で幸せなプロジェクトです。これを皆様と一緒に末長く続けていけたら、と心より願っております。

今回は北村陽君という素晴らしく才能に恵まれた若いチェリストがこのグループのメンバーになって、最初のコンサートです。前回（2024年11月）のコンサートの時点で、彼が次回からグループに加わることが決まっていたので、彼はその時、出演するのではないのに水戸まで駆けつけて、全てのリハーサルとコンサートを聴いてくれました。そんな熱意のある彼との共演を本当に楽しみにしています。

今回のプログラムですが、1曲目のモーツァルトの弦楽三重奏によ


磯村和英


北村 陽

る〈ディヴェルティメント〉は、庄司紗矢香さんに10年程前から、いつか一緒に弾いてね、と頼んでいた自分にとって特別な曲です。

前半に弾くモーツァルトと後半に弾くブラームスは共に大曲ですが、ある意味で非常にタイプの違った作品だと思います。モーツァルトの〈ディヴェルティメント〉は非常に典雅で崇高であり、ブラームスの〈ピアノ四重奏曲第1番〉は感情に直接的に訴えてくるような曲です。ブラームスでの小菅優さんの熱演を期待しています。

聴衆の皆様にとっても大変なプログラムかと思いますが、楽しんで聴いていただけたら幸せです。

磯村和英

＊＊＊＊＊＊

昨春、庄司紗矢香さんからメッセージを頂いた時の衝撃は今でも忘れられません。憧れの皆様との共演に全身が震えました。昨年の「新ダヴィッド同盟」の期間中、無理を言って、リハーサル初日から本番までのすべてを見学させていただきました。個性溢れる音色が語り合い核心へと迫るアンサンブルに、来年本当に自分がここにいるのかと信じられない思いでした。お互いが心を開いて作り上げる色鮮やかな世界に、一瞬で引き込まれていく。演奏を通じて作曲家の心臓にじかに触れ、その情熱を感じているような体験でした。

今回演奏するモーツァルトの弦楽三重奏による〈ディヴェルティメント〉は、私にとって思い出深い曲です。コロナ禍で音楽活動に厳しい制限のある中、やっと始められた室内楽で取り組んだのがこの曲でした。深く、洗練されたアイデアの盛り込まれた作品なので、面白いことはもちろんですが、誰かと共に音楽を作ることに、この上ない歓びを感じました。モーツァルトも初演の際、愛器のヴィオラで参加して演奏したそうです。自身で楽しみ、彼にとってもお気に入りの曲だったのではないでしょうか。

そして、ブラームスの〈ピアノ四重奏曲第1番〉は、私と近い年齢で作曲された作品ですが、ウィーンで認められるきっかけとなった素晴らしい曲です。しかし、彼を世界に送り出してくれたシューマンの死、作曲家としての自立、クララへの想いなど、複雑な感情と向き合う中で作られているので、奥深くに隠れている思いも探っていきたいと思います。

いよいよ共演の時が近づいてきてとても興奮しています。メンバーの皆様から一つでも多くのことを学び吸収して、音楽で対話できればと思っています。そして、私の感じた音楽の歓びを、会場の皆様にも感じていただきたいです！

北村 陽



小菅 優
©Takehiro Goto

「新ダヴィッド同盟」が結成されてから15年が経ちました。命名して下さった吉田秀和氏（水戸芸術館館長、当時）、小口達夫氏（水戸芸術館専属楽団総楽団長、当時）をはじめ、ずっとこのアンサンブルを大事にして下さっていた方々が今は天から見守っていらっしゃるのかと思うと、感謝の気持ちと同時に寂しい気持ちでいっぱいですが、彼らの「新ダヴィッド同盟」に対する、そして室内楽という最も人間的かつ内面的な、互いのコミュニケーションを必要とする音楽への思いを、今後も大切にしていきたいと思います。

第8回演奏会で演奏するブラームスの〈ピアノ四重奏曲第1番〉は、ブラームスが終生携わっていたハンガリーの民族音楽を反映したジプシーのロンドが有名ですが、ベートーヴェンから引き継ぐ静かな内省的な力と構成力、ため息のような、メランコリーを漂わせる半音降りるモチーフが第1楽章から第4楽章までを繋ぎ、見事な最初のピアノ四重奏曲となっています。

今回新しくメンバーに加わる北村陽さんは昨年共演する機会がありました。素晴らしい音楽性の持ち主な上、すでにしっかりとした考えを持っている類稀な才能で、どんなアイデアでこのアンサンブルに新しい風を吹き込んでくれるのか、とても楽しみです。いつも温かく、室内楽へのこの上ない愛情に溢れる磯村先生からは毎回たくさんの学びがあります。そしてワークショップのような、リハーサルでの勉強を常に大切にする「新ダヴィッド同盟」の真髄を断固として守ってきてくれた庄司さんとは、今や言葉を交えなくても分かり合えるところがありますが、彼女の知性と芸術性からは絶えずインスピレーションを受けます。

私たち4人の個性がぶつかり合いながらもここでしかできないハーモニーが生まれる瞬間を、聴衆の皆様にこれからもずっと水戸芸術館で聴き続けていただきたいです。第8回演奏会でのアンサンブルが今から楽しみでなりません。

小菅 優

■公演情報

水戸芸術館・専属楽団
新ダヴィッド同盟
第8回演奏会

2025.9.18（木）18:30開場 19:00開演
全席指定 S席¥6,000、A席¥5,000、
B席¥4,000、U-25（25歳以下）¥2,000

●出演
庄司紗矢香（ヴァイオリン）、磯村和英（ヴィオラ）
北村 陽（チェロ）、小菅 優（ピアノ）

●曲目
モーツァルト：ディヴェルティメント 変ホ長調 K.563
ブラームス：ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25

Report

パイプオルガン・プロムナード・コンサート ★ゴールデンウィーク・スペシャル

文：根本彩生



水戸芸術館では、パイプオルガンの魅力を気軽に味わうことができる「パイプオルガン・プロムナード・コンサート」を月に2回程度、土日祝日のお昼に開催しています。入場無料で1回約30分の公演ですので、普段水戸芸術館に足を運ぶ機会が少ない方やお子様連れの方にもご好評いただいています。さらに、季節ごとには「〇〇スペシャル」と題して45分の特別公演を行っています。

5月4日(日)に開催した「ゴールデンウィーク・スペシャル」では、オルガニストの大木麻理さんをお迎えしました。大木さんは東京藝術大学在学中から、当館のオルガンを演奏していて、その後も実力派のオルガニストとして幅広くご活躍なさっています。今回の公演について「実家に帰ってきたような気分で、とても楽しく演奏できました」と語ってくださいました。今回のプログラムは、J.S.バッハなどクラシックの名曲から童謡やディズニー映画の主題歌まで、幅広い世代が楽しめるバラエティに富んだ構成でした。なかでも、4曲目に演奏された〈「きらきら星」による変奏曲〉では、当館のパイプオルガンが持つ音色を存分に活かし、1台のオルガンで奏でられる多彩な音の変化を感じていただける工夫が凝らされていました。オルガンの音色の違いは、「ストップ（音栓）」と呼ばれる装置を使って、パイプに空気の通り道を作り、素材や形の異なるパイプを切り替えたり、組み合わせたりすることで生まれます。この曲では、「ツィンベルシュテルン（Zimbelstern）」という星型の飾りが回転しながら鐘とシンバルのような音を響かせる仕掛けのストップも使用され、「きらきら星」の音楽を、視覚的な楽しさも添えて演奏してくださいました。ご家族連れをはじめ、立ち見の方もいらっしゃるほど多くの方にご来場いただき、ありがとうございました。

開館以来続いている「プロムナード・コンサート」は、まもなく通算1600回を迎えます。水戸芸術館のパイプオルガンは、地域の皆さまに親しまれ、たくさんの演奏者によって育まれてきた楽器です。今後もより多くの方にお楽しみいただけるよう、2000回の公演を目指して「プロムナード・コンサート」の開催を続けてまいります。週末や祝日には、ぜひ水戸芸術館にお立ち寄りいただき、パイプオルガンの美しい響きに包まれるひとときをお過ごしください。

■今後の公演案内

□ 8月16日（土）13:30〜14:15
勝山雅世　★ぴ〜すプロジェクト
エルガー：《エニグマ変奏曲》作品36より 第9変奏〈ニムロッド〉

□ 9月13日（土）12:00〜12:30／13:30〜14:00　尾畑瑞香
G. ニア：ウクライナの鐘のキャロルによるカリヨン

□ 9月20日（土）12:00〜12:30／13:30〜14:00　澤 菜摘
デュリュフレ：前奏曲、アダージョと〈来たれ創り主なる精霊よ〉による
コラール変奏曲 作品4 ほか

「J. S. バッハをとりまく音楽のシリーズ」を、とりまいて

文：角増 柊



指揮、作曲、プロデューサー業など八面六臂の活躍で私たちにつねに新しい刺激を与え続けている音楽家、鈴木優人。その鈴木優人が自身の原点でもあるJ.S.バッハ（1685〜1750）の作品に立ち返ると同時に、かつてなかった新鮮な切り口でその音楽の真髄に迫るシリーズ企画をプロデュースし、自ら出演している。それが、「J.S.バッハをとりまく音楽のシリーズ」である。

J.S.バッハをとりまく「イタリア vs フランス」

昨年2024年10月に行われた第1回のテーマは「イタリア vs フランス」。J.S.バッハと同じバロック時代に活躍したイタリアやフランスの作曲家の作品を交え、ヨーロッパ各地の多様な音楽を自らの作曲技法へと昇華したJ.S.バッハの奇才ぶりを明らかにした。

ここで取り上げられたのは、フレスコバルディ、フローベルガー、L.クープランやラモーなど、J.S.バッハから見ていわば先輩や同年代にあたる作曲家たちの作品だ。それぞれのもつ“お国柄”ともいえる音楽上の特徴や特有の様式美などをJ.S.バッハが鋭敏に捉え、そして、どのようにして自国ドイツの音楽の持ち味と引き合わせていったのかを、鈴木氏の精緻なチェンバロの音が見事に描き出した。音を聴けばすぐに納得。これらの作品がJ.S.バッハの作品とたしかに“つながっている”ことを感じさせる演奏に舌を巻いた。また、演奏者としてだけではなく、バロック音楽研究の第一人者としての顔も持ち合わせる氏による解説トークもとても興味深く、イタリアとフランスの楽壇が真っ向から対立した「ブフォン論争」についてなど、知識欲も満たされる充実の内容だった。

J.S.バッハをとりまく「捧げもの」からモーツァルトへの系譜

第2回のテーマは「『捧げもの』からモーツァルトへの系譜」。J.S.バッハの晩年の名作《音楽の捧げもの》が30年の時を経て、どのようにモーツァル

図1

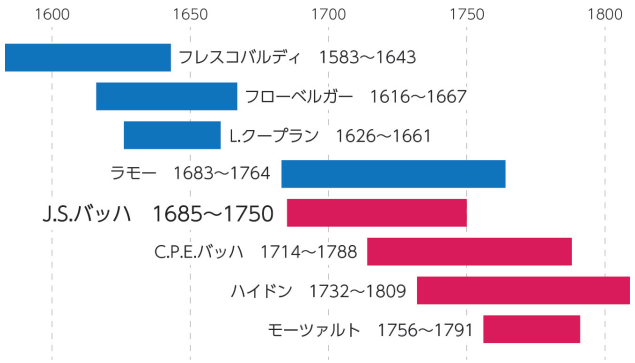
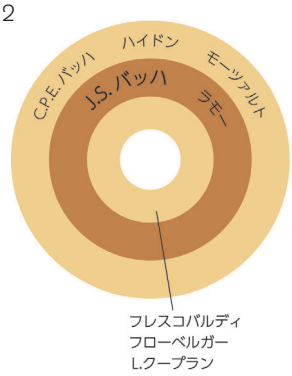


図2



トの〈ヴァイオリン・ソナタ〉までたどり着いたのかを、バッハ・コレギウム・ジャパンの音楽仲間たちとともに、J.S.バッハの息子であるC.P.E.バッハや古典派の巨匠ハイドンの作品も交えながら追体験するプログラムだ。

「30年の時」と言われて真っ先に思い出したのは、昨年3月末のことだ。優人氏の父・雅明氏が当時、開館間もない当館でJ.S.バッハの《マタイ受難曲》を演奏してから実に30年ぶりに、同じ水戸の地で優人氏が同じ曲を演奏したのである。優人氏は小さい頃から、雅明氏について行くような形で当館にも出入りしていたそうで、不思議とそうした縁が実を結んだわけだが、この出来事が本シリーズの構想にも少なからず影響を及ぼしていると思えてならない。さらに、C.P.E.バッハ（次男）とJ.S.バッハの父子のつながりを、優人氏（こちらは長男）と雅明氏の父子のつながりになぞらえることができるかもしれない。約300年前にJ.S.バッハからC.P.E.バッハへと作曲の技術や気質が受け継がれていったように、雅明氏から優人氏へのつながりも30年前にはすでに脈打ち始めていたのだろうか。

とりまいて、とりまいて、
その先に見えるもの

ところで、これまで登場した作曲家を時系列に沿って並べると図1のようになる。よくある何の変哲もない年表である。筆者はこの型の図を見ると、過去から未来へとつながっていく「直線の一本道」であるかのようなイメージがどうしても浮かんでしまうのだが、実際にその時代を生きたヒトや生み出されたモノというのは、互いにもっともっと複雑なつながり方をしていて、一本道の上に簡単に位置づけることはそうそうできないのではないだろうか。

たとえるならば、バウムクーヘン。オーブンの温度や焼き時間などに気を配りつつ、生地を掛けては焼き、掛けては焼き……時間と手間をかけて徐々にとりまいていくうちに、やがて本物の樹木の年輪のようにまん丸で立派なバウムクーヘンができあがるわけだが、西洋音楽においても、作曲家や作品どうしのつながりを語る際などにはこうしたイメージを用いたほうがしっくりくる（図2）。あるいは、雪だるまだろうか。たとえ最初は小さな雪玉であっても、転がして、転がして……周りの雪をとりまいていくうちに、いつしか巨大な雪玉に成長する。どちらも、軸となる棒や核になる雪玉がどこかに存在している（いた）はずなのだが、その存在を指摘したり決めつけたりしようとするのは、いささか無粋だ。

優人氏と当館とのつながり、優人氏と雅明氏の父子のつながり、そして、J.S.バッハをとりまく西洋音楽のつながりもまた然り。徐々に醸成されてきたつながりが、徐々に明らかになっていくところに、数々の特別な瞬間や心に残る体験が生まれるはずだ。全4回を予定している本シリーズの今後の展開から、目が離せない。

■公演情報

鈴木優人（チェンバロ）
「J.S.バッハをとりまく音楽のシリーズ」
第2回「捧げもの」から
モーツァルトへの系譜

2025.9.27（土）14:30開場 15:00開演
全席指定
一般¥5,000、U-25（25歳以下）¥1,800

●出演
鈴木優人（チェンバロ）
鶴田洋子（フラウト・トラヴェルソ）
寺神戸亮（ヴァイオリン）
山本徹（チェロ）

●曲目
ハイドン：チェンバロ・ソナタ 第1番 ト長調 Hob.XVI:8
C.P.E.バッハ：フルート・ソナタ イ短調 Wq.128
モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ 第18番 ト長調 K.301(293a)
J.S.バッハ：音楽の捧げもの BWV1079

INFORMATION

※以下は7月20日現在の情報です。公演等に関する最新情報は当館ウェブサイトにてご確認ください。

チケット・インフォメーション

《8.30（土）発売予定》

■茨城の名手・名歌手たち 第33回演奏会
11.9（日）16:00

■ちょっとお昼にクラシック
室住素子（オルガン）
11.29（土）13:30

■クリスマス・プレゼント・コンサート2025
12.20（土）16:00

《9.27（土）発売予定》

■ちょっとお昼にクラシック
加藤訓子（パーカッション）
2026.1.24（土）13:30

水戸室内管弦楽団第116回定期演奏会
全プログラム決定のお知らせ

下記のように、全プログラムが決定しました。
（モーツァルト、ベートーヴェンのみお知らせしておりましたが、武満徹作品を指揮者なしで演奏することに決まりました）

○武満徹：ア・ウェイ・ア・ローンⅡ
○モーツァルト：ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 K.466
○ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58

日時や出演者等の詳細は、当館ウェブサイトをご覧ください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

8・9月の主な音楽イベント

コンサートホールATM

◆0歳からのわくわくオルガン・コンサート にぎやか★オルガン
8.11（月・祝）11:00 予定枚数終了
料金［全席指定］子ども（0歳～小学生）¥500／大人（中学生以上）¥1,000

◆新ダヴィッド同盟 第8回演奏会
9.18（木）19:00
料金［全席指定］S席¥6,000／A席¥5,000／B席¥4,000／U-25（25歳以下）¥2,000

◆鈴木優人（チェンバロ）「J. S. バッハをとりまく音楽のシリーズ」
第2回「捧げもの」からモーツァルトへの系譜
9.27（土）15:00
料金［全席指定］一般¥5,000／U-25（25歳以下）¥1,800

エントランスホール

◆パイプオルガン・プロムナード・コンサート
（入場無料／事前予約不要）
詳しくは5ページをご覧ください。

◆プロムナード・コンサートEXTRA
（入場無料／事前予約不要）
8.30（土）13:00～13:45 髙野 綾（マリンバ）、高瀬奈美（ピアノ）

MCOメンバーが講師を務める2種類のレッスンの受講団体を募集します。詳しくは、当館ウェブサイトをご覧ください。

◆管打楽器アンサンブル・レッスンとコンサート◆
事前レッスン（非公開）：2025年11月22・23・24日（土・日・月祝）から計5時間程度
コンサートリハーサル：2026年1月11日（日）　コンサート本番：1月12日（月・祝）
定員：4組

◆吹奏楽／オーケストラ公開レッスン◆
事前レッスン（非公開）：2026年2月14日（土）
リハーサルと公開レッスン：2月15日（日）　定員：1組

演劇・美術のイチオシ企画！

ACM劇場

◆新しいシェイクスピア劇の創造事業 水戸芸術館プロデュース公演
『ロミオとジュリエット』
9月20日(土)～28日(日)13:00または18:00
※詳しくは当館ウェブサイト（ACM劇場）をご覧ください。
原作：W.シェイクスピア
翻訳：小田島創志　演出：大澤遊
振付・ステージング：根本紳平(水中めがね∞)
出演：大石英玄（文学座）、伊海実紗、鈴木勝大、高畑こと美、伊藤ナツキ、今井公平、西奥瑠菜、八頭司悠友、塩谷亮、大内真智、小林祐介（以上劇団ACM）、松田洋治
美術：池宮城直美　衣裳：佐野利江
照明：佐野清一　音響：友部秋一
舞台監督：川除学
料金：一般¥4,000／U-18(18歳以下)¥1,000／夜割（18:30公演）¥2,500



現代美術ギャラリー

◆日比野克彦
ひとり橋の上に立ってから、だれかと舟で繰り出すまで
7.19（土）～10.5（日）
［休館日］月曜日（祝日の場合は翌火曜日）
［開場時間］10:00～18:00（入場は17:30まで）
［入場料］一般¥900／団体（20名以上）¥700／高校生以下・70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料



2025年8月8日発行（第271号）
編集：水戸芸術館音楽部門 ｜ 中村 晃、関根哲也、篠田大基、角増 柊、根本彩生、高木春佳、渡辺有美
発行：（公財）水戸市芸術振興財団　〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8　Tel.029-227-8118（音楽部門）
Tel.029-231-8000（チケット予約センター 9:30～18:00・月曜休館）　https://www.arttowermito.or.jp/
デザイン：K5 ART DESIGN OFFICE.　印刷製本：山三印刷株式会社

■編集後記

今年の夏休みは、念願の韓国旅行に行ってまいります!!! 妹2人と母と、女4人旅です。母は旅行のために韓国語を基礎から勉強してますが、それくらいだったら私がしゃべれるし…という言葉を飲み込みながらあたたかく見守ってます（笑）（春）

休日にしゃぶしゃぶ食べ放題で暴食していたら、奥歯が割れて欠けた。久々に歯医者へ行き、麻酔をかけて割れた部分を抜かれたり、新しい詰め物の型をとられたり、ドリルで歯を削ったりされたわけだが、毎診察に15分とかからない医師の手際の良さに脱帽。……でも、いくつになっても歯医者が怖いの。（角）

皆様のお手元に届く頃には、8月の「みんなのクラシック」で、パイプオルガン特集を担当しています。先日、市内の小学6年生にオルガンの話をしたところ、幼稚園の頃に見学会でオルガンを見たことを覚えていた子がいて、その記憶が今も残っていたことに、心がほっこりしました。（根）

9月は次男の誕生月。最近よく口笛を練習している。ちょっとうるさい。ある有名フルート奏者と誕生日が同じなのだが、フルートには興味がない様子。ちょっと残念。〈Happy Birthday to You〉を歌っている。＼吐っき出ーせー牛ー乳ー♪ やめてほしい。（篠）

現代美術ギャラリーでは、日比野克彦展を開催している。日比野さんは「美術は「一人じゃない」を伝えてくれる知恵なのだと私は思う」と語っている。孤独な魂を連れ出して、人の輪の中に入ることの喜び。そうした幸福感が日比野作品には宿っているのだと思う。（中）

長嶋監督は地下室の電気を消して松井選手に素振りをさせていた。音のみで「ダメ!」「それだ!」とスイングの良し悪しを判断していたという。そのような鋭敏な感覚は私にはありませんが、オーディオは真っ暗にして聴くのが好きです。R.I.P.（て）

8月から音楽部門の一員になりました。わくわくと緊張を胸に音楽を鑑賞したり、新しい世界を知りたくてアートに触れたりした水戸芸術館。芸術が近くにある日常に幸せを感じています。いままでにない夏が過ごせそうで、楽しみです。（辺）